

第 1 章 石岡市の市勢

第1章 石岡市の市勢

1. 市の概況

(1) 位置・地勢

本市は、茨城県のほぼ中央に位置し、市域の北西部に連なる筑波山系から南部の市街地にかけてなだらかな丘陵地が広がり、市北部から東南端へと流れる恋瀬川は、日本第2位の面積を持つ霞ヶ浦にそそいでいます。その水面を含めた市の面積は215.53平方キロメートルで、県土の約3.5パーセントを占めています。

首都圏と東北地方を結ぶ常磐自動車道、国道6号、JR常磐線が市を南北に貫き、この交通条件の良さが、市民生活はもちろんのこと企業誘致や農作物の出荷などにおいて有利に働いています。

さらに、市域のすぐ北を北関東自動車道が横断しているほか、茨城県の空の玄関口である茨城空港も、市内から約10キロメートルの距離にあります。

面積	<ul style="list-style-type: none"> ➤市の面積 215.53 k m²
人口・世帯数	<ul style="list-style-type: none"> ➤総数 75,830人 (男: 37,377人, 女: 38,453人) ➤世帯数 27,778世帯 (1世帯当たりの人員: 2.73人) ➤人口密度 351.83人/k m²

(出典:平成27年10月1日現在 石岡市常住人口)

(2) 沿革

旧石岡市は、昭和28年高浜町を編入、翌29年には市制を施行し、同年三村と関川村とを編入して旧石岡市の市域となりました。

旧八郷町は、昭和30年に柿岡町・小幡村・葦穂村・恋瀬村・瓦会村・園部村・林村・小桜村の1町7か村が合併して旧八郷町の町域となりました。

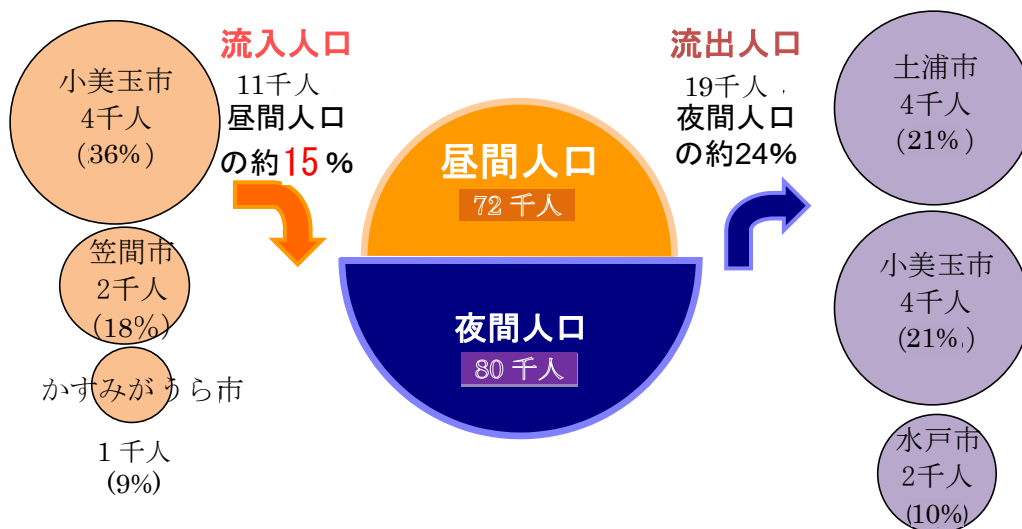
その後、石岡市は平成17年10月1日に、旧石岡市と旧八郷町が合併を行い誕生しました。

(3) 市民の1日の流出入状況

昼夜人口は、昼間人口 7.2 万人に対し、夜間人口は 8.0 万人と夜間が上回っています。

流入人口 1.1 万人に対し流出人口が 1.9 万人（市の人口の 24%）となっており、主な流出先は土浦市、小美玉市、水戸市です。昼夜間人口比率は5年間で減少しております。

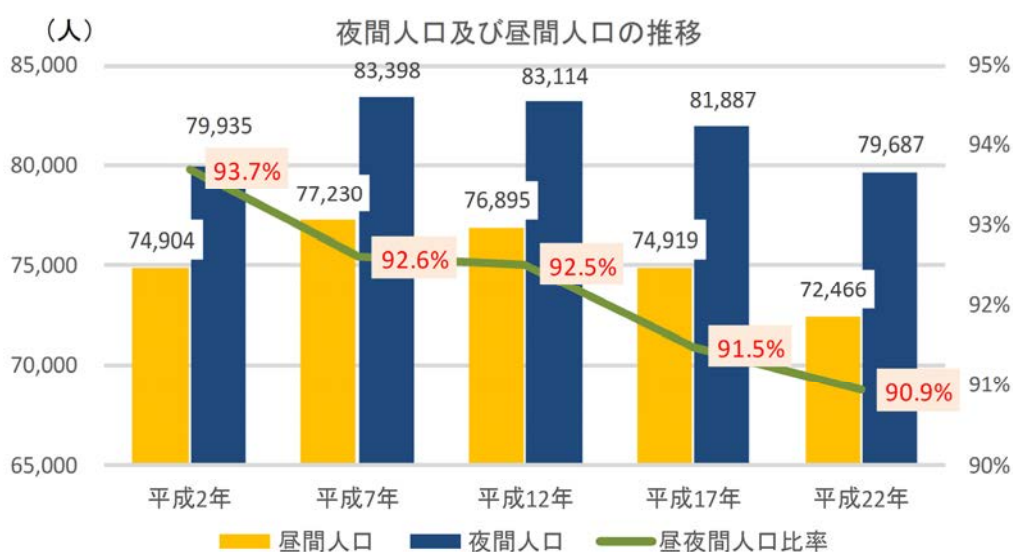
図 流出入人口



(出典：平成 22 年国勢調査)

平成 2 年から平成 22 年の 20 年間で、昼夜間人口比率が 93.7% から 90.9% まで落ち込んでいます。産業活動・立地の低迷等により、流入人口の減少による昼間人口の減少がみられます。

図 夜間人口及び昼間人口の推移



(出典：平成 2 年から平成 22 年国勢調査)

※平成 17 年以前は旧石岡市と旧八郷町から算出

(4) 交通状況

都心から約70kmに位置し、JR常磐線や常磐自動車道が縦断し、そして茨城空港などへのアクセスができ、基幹交通のネットワークの良さを持っています。

さらに、平成24年11月に朝日トンネルが開通し、土浦市・つくば市方面と石岡市八郷地区の円滑な交通が確保されたことで、八郷地区における「観光」「産業」「生活」に、トンネル開通の効果が表れています。

項目	動向	課題
高速道路交通体系	・北関東自動車道や東関東自動車道水戸線、首都圏中央連絡自動車道の整備が進み、常磐自動車道を中心とした高速道路ネットワークの形成が期待されています。	・高速道路ネットワークを十分に活用するため、アクセス性の確保、充実を進めていく必要があります。
一般道路網	・朝日トンネルが整備され、つくば市や土浦市方面との連絡が容易になりました。 ・国道6号千代田石岡バイパスや国道355号石岡岩間バイパスなど、広域幹線道路の整備が進んでいます。	・交通面における潜在能力（ポテンシャル）を活用した受け入れ対策が、活用と保全の両面において必要です。
鉄道網	・つくばエクスプレスが整備され、鉄道による交通環境にも変化が生じています。	・他交通機関との連携が必要です。
茨城空港	・小美玉市にある茨城空港は、北関東の空の玄関口としての役割をはじめ、近接する成田空港との連携、補完による国際線への乗り継ぎ基地や国際貨物の中継、集積地としての役割も期待されています。	・茨城空港の開港により、本市はその玄関口として、多様な交流を育む環境を整備していく必要があります。産業面等においても茨城空港の整備効果が本市に波及するような取り組みが求められています。



2. 市の人口特性

(1) 市の人口推移と将来予測

■ 3階層別人口推移及び将来予測

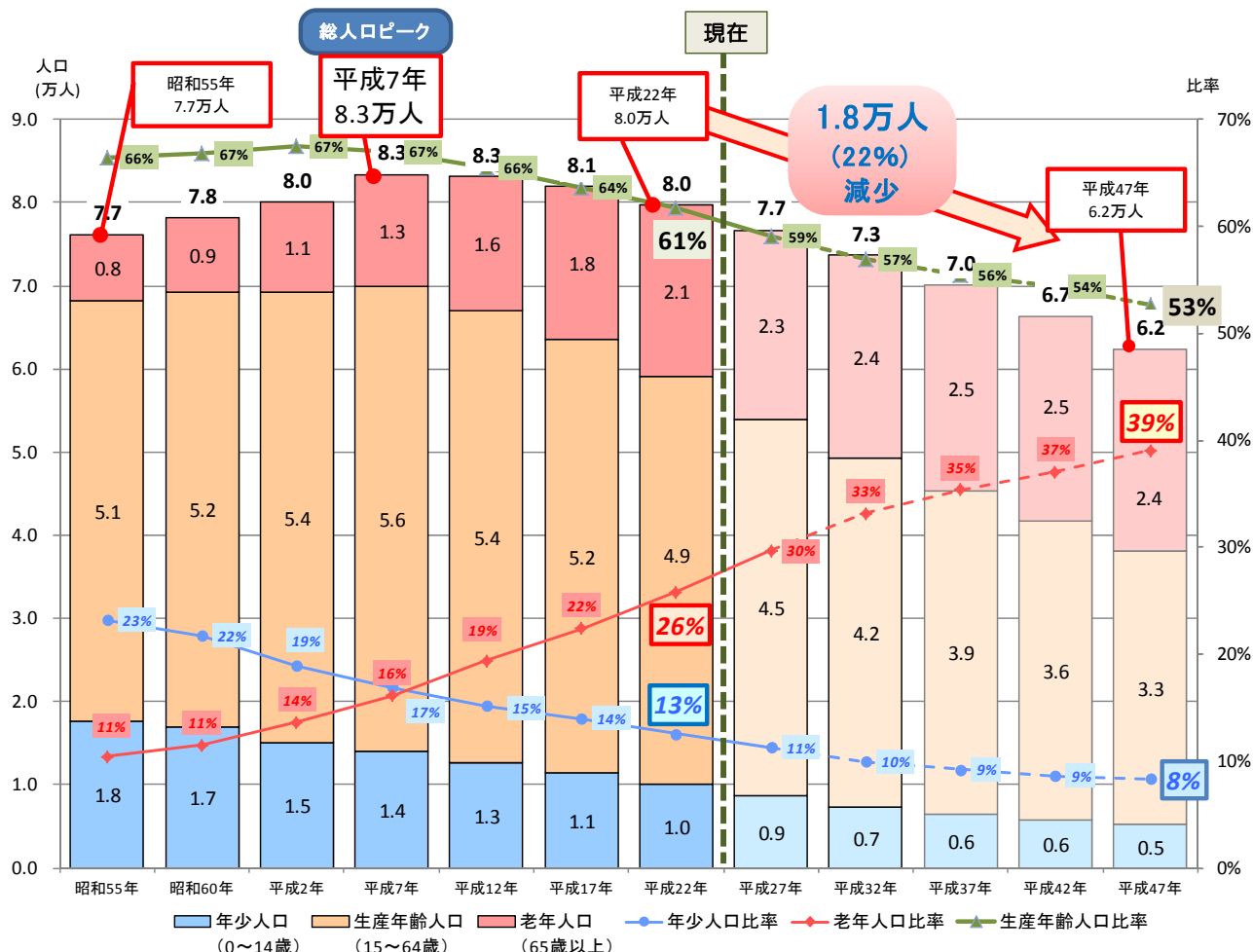
本市の人口は、平成7年の8.3万人をピークに減少に転じ、その後40年間で急速に減少し、平成47年には6.2万人に減少する見込みです。

平成22年時点の8.0万人から1.8万人（約22%）の減少です。

平成22年と平成47年の比較で年齢構成別にみると、生産年齢人口が4.9万人から3.3万人へ約32%減少、年少人口は1.0万人から0.5万人へと約50%減少する一方、老年人口は2.1万人から2.4万人へと約14%増加することが推計されております。

また、平成27年の7.7万人から平成47年には6.2万人に減少する見込みとなっており、今後20年間で人口構成が大きく変化し、求められる行政サービスの変化に対応する必要があると考えられます。

図 年齢階層別人口推移（実績・将来推計）



※ 推計は、国立社会保障・人口問題研究所の推計手法に準拠（平成22年10月1日を基準年として推計）

（出典：総務省「国勢調査」※平成17年以前は旧石岡市と旧八郷町から算出）

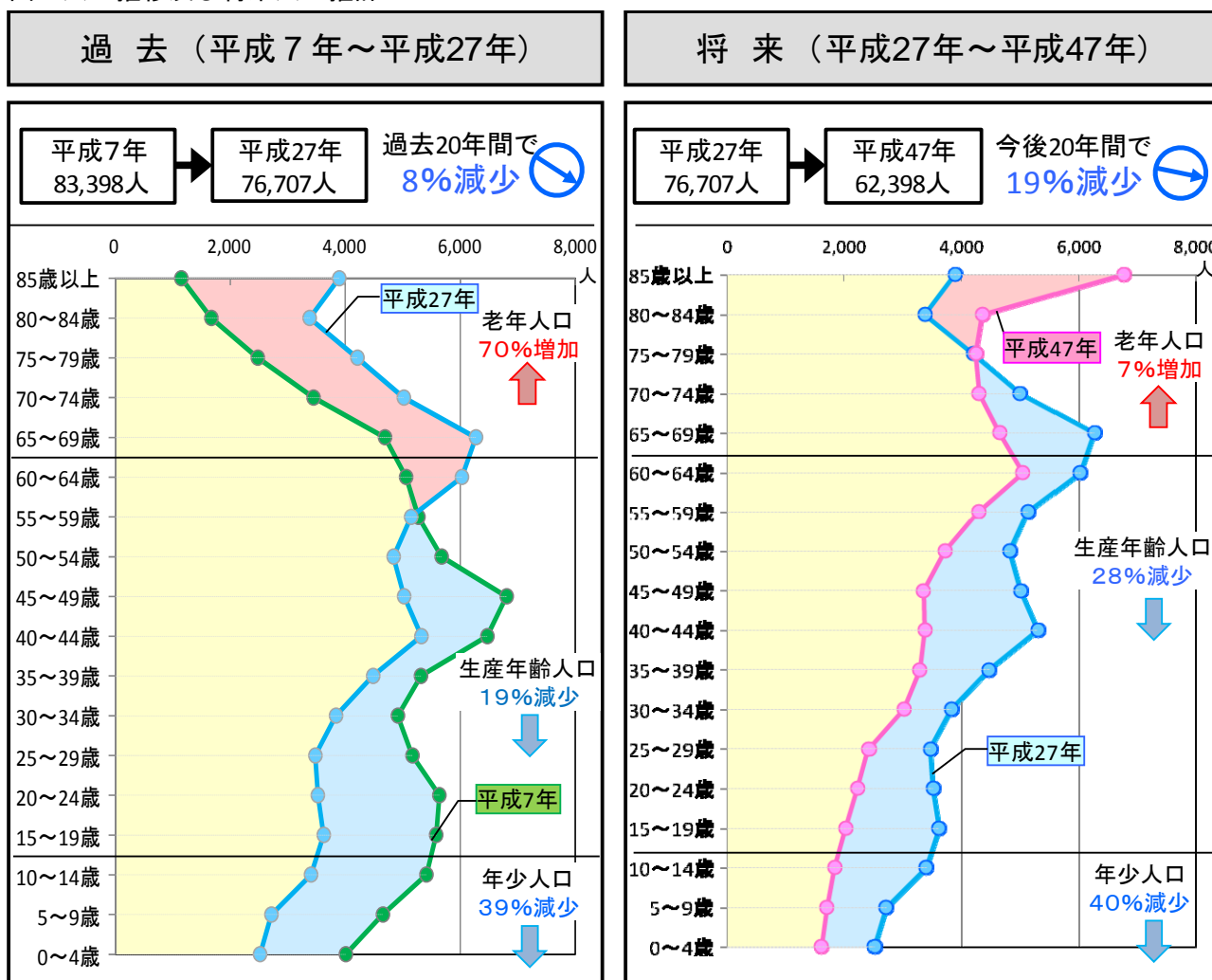
(2) 階層別人口推移及び将来予測

平成7年は、老年人口と年少人口の割合は同程度でしたが、平成27年には、老年人口が年少人口の3倍近くとなっています。平成47年には、老年人口が年少人口の約5倍となる見込みです。

また、老年人口と生産年齢人口の比率については、平成7年では老年人口層の1人を生産年齢層4.16人で支えていたものが、平成47年では、1.35人で支える状況になる見込みです。

こうした将来人口の規模、構成の大きな変化は、公共施設サービスの需要量と内容に大きな影響を与えるものと考えられるほか、生産年齢人口の減少は個人市民税収の減少を通じて、財政制約がますます強まってくることが想定されます。

図 人口推移及び将来人口推計



	平成7年	平成27年	人口増減率
	83,398人	76,707人	-8.0%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳～)	13,435人	22,771人	69.5%
生産年齢人口 (15～64歳)	55,892人	45,300人	-19.0%
年少人口 (0～14歳)	14,071人	8,636人	-38.6%

	平成27年	平成47年	人口増減率
	76,707人	62,398人	-18.7%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳～)	22,771人	24,362人	7.0%
生産年齢人口 (15～64歳)	45,300人	32,854人	-27.5%
年少人口 (0～14歳)	8,636人	5,182人	-40.0%

(3) 旧中学校区別人口

旧中学校区別人口では、最大で石岡中学校区 1 万 8,258 人から最少の旧有明中学校区の 4,873 人と人口に約 3.7 倍の大きな開きがあります。

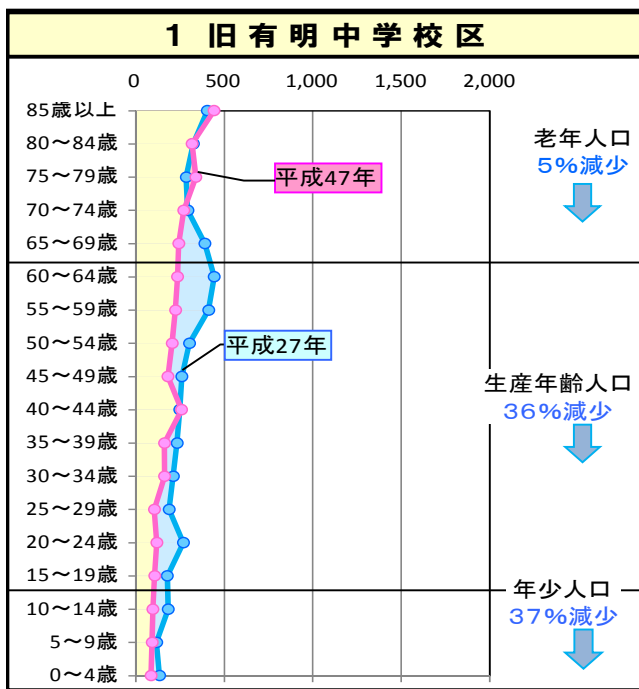
また旧中学校区別の 3 階層の特徴として 65 歳以上の比率では、最大で国府中学校区の 36%から最少で石岡中学校区の 24%と約 12 ポイント以上の開きがあります。

65 歳以上の人口では、最大で府中中学校区の 4,783 人から最少の園部中学校区の 1,660 人と約 2.9 倍の開きがあります。

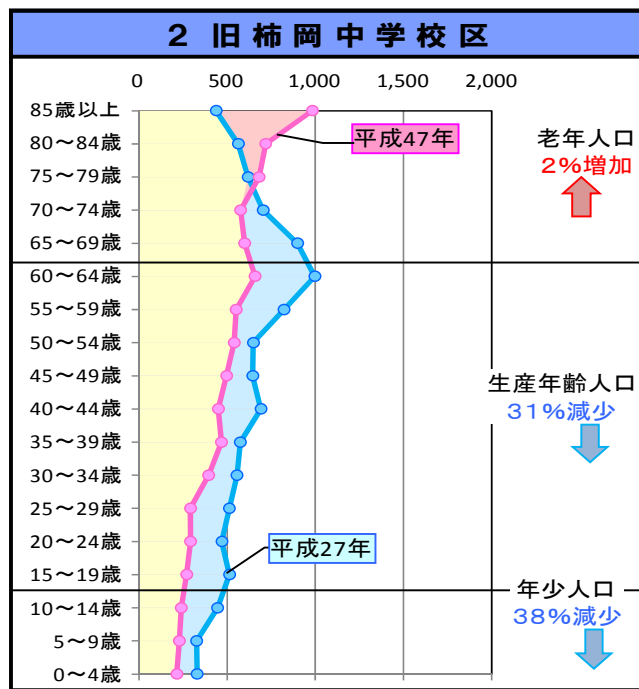
15 歳未満の人口では、最大で石岡中学校区の 2,464 人から最少で旧有明中学校区の 433 人と約 5.7 倍の開きがあります。

図 旧中学校区

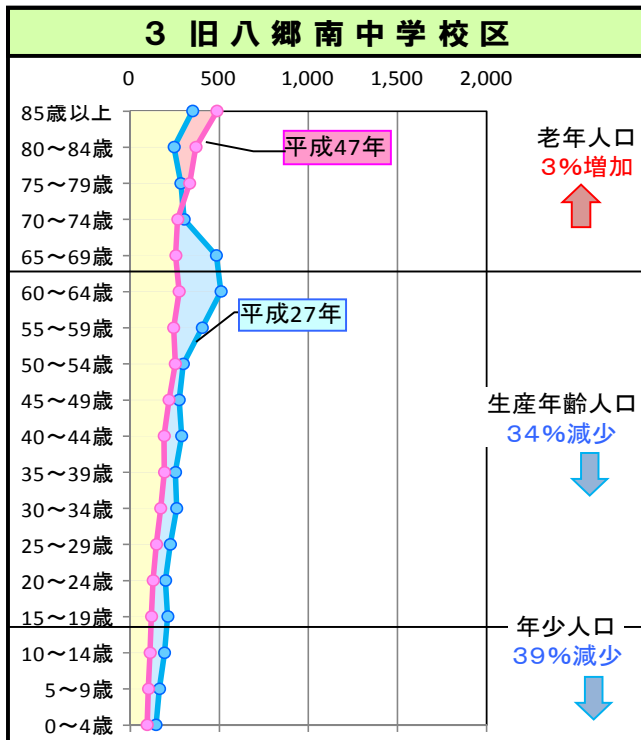




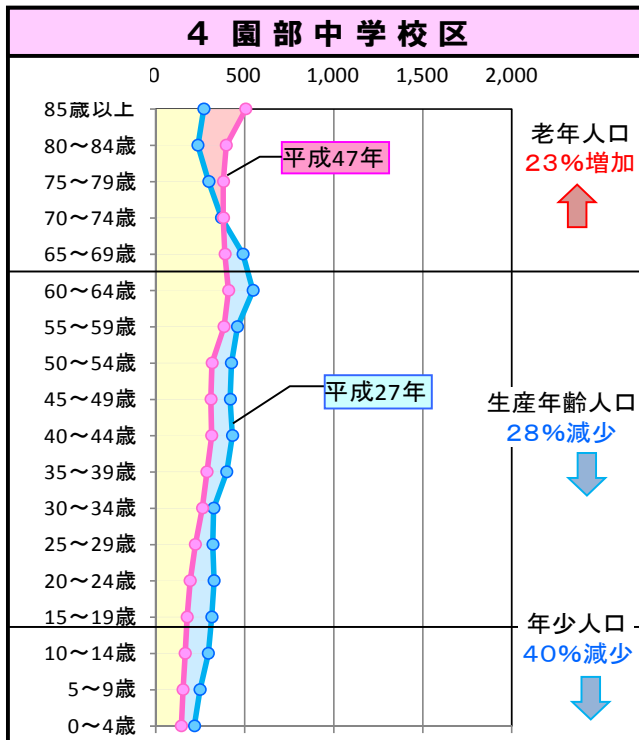
	平成27年	平成47年	人口増減率
	4,873人	3,643人	-25.2%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳～)	1,696人	1,611人	-5.0%
生産年齢人口 (15～64歳)	2,744人	1,758人	-35.9%
年少人口 (0～14歳)	433人	274人	-36.8%



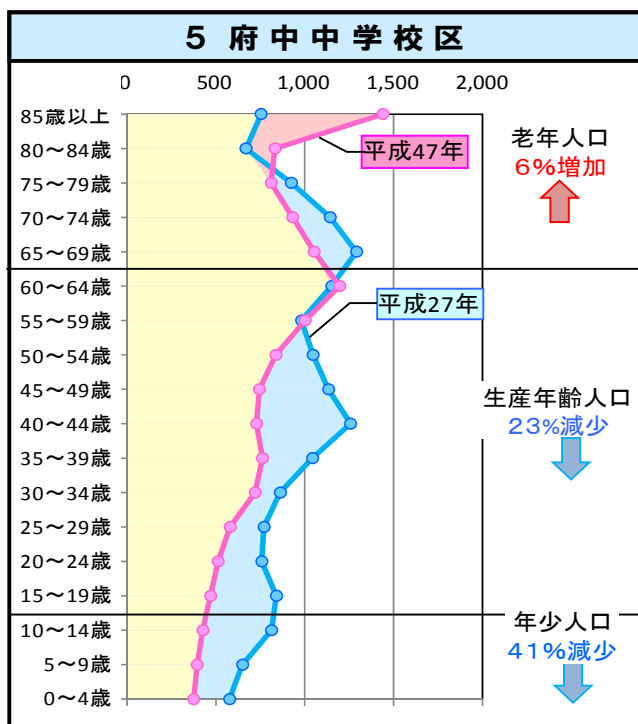
	平成27年	平成47年	人口増減率
	11,013人	8,654人	-21.4%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳～)	3,483人	3,558人	2.2%
生産年齢人口 (15～64歳)	6,428人	4,413人	-31.3%
年少人口 (0～14歳)	1,102人	683人	-38.0%



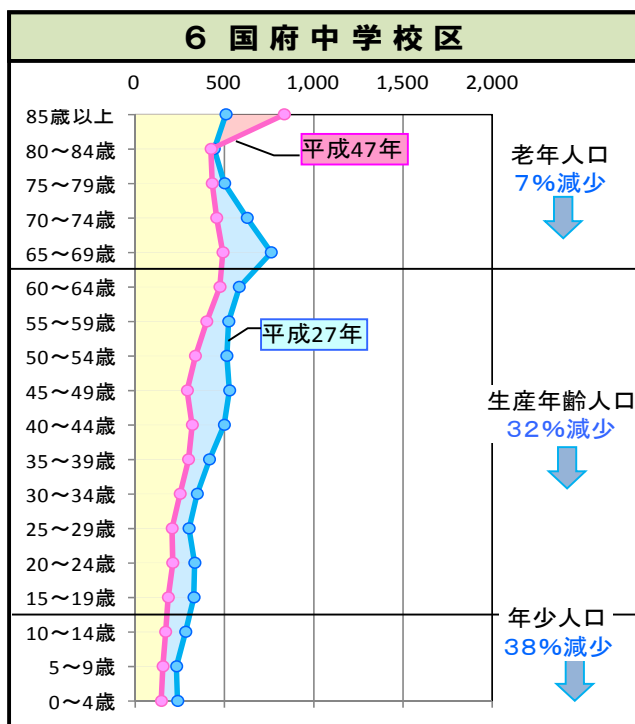
	平成27年	平成47年	人口増減率
	5,076人	3,941人	-22.4%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳～)	1,663人	1,706人	2.6%
生産年齢人口 (15～64歳)	2,915人	1,929人	-33.8%
年少人口 (0～14歳)	498人	306人	-38.6%



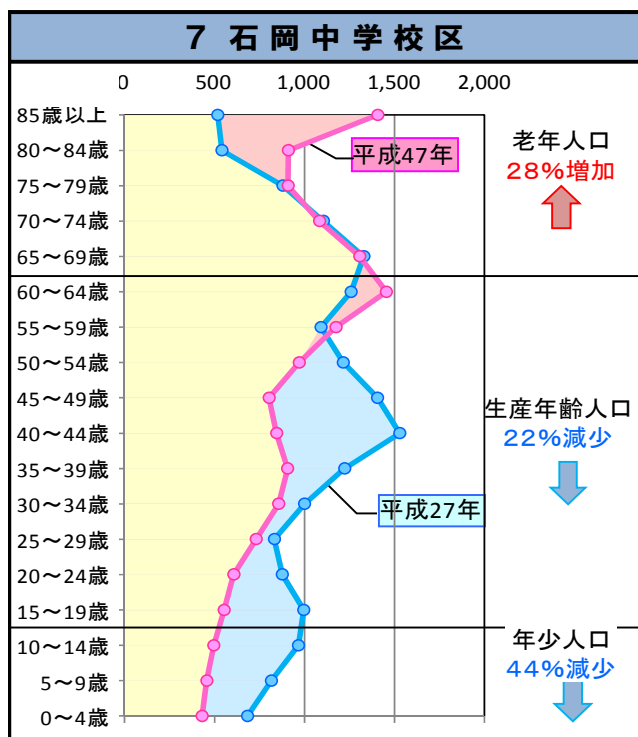
	平成27年	平成47年	人口増減率
	6,381人	5,375人	-15.8%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳～)	1,660人	2,047人	23.3%
生産年齢人口 (15～64歳)	3,961人	2,868人	-27.6%
年少人口 (0～14歳)	760人	460人	-39.5%



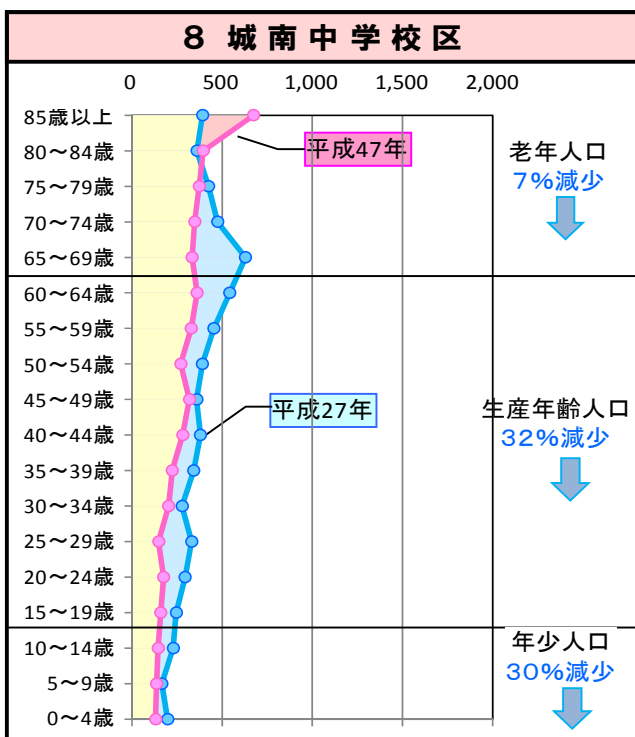
	平成27年 16,667人	平成47年 13,821人	人口増減率 -17.1%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳~)	4,783人	5,069人	6.0%
生産年齢人口 (15~64歳)	9,845人	7,555人	-23.3%
年少人口 (0~14歳)	2,039人	1,197人	-41.3%



	平成27年 7,954人	平成47年 6,071人	人口増減率 -23.7%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳~)	2,837人	2,636人	-7.1%
生産年齢人口 (15~64歳)	4,368人	2,967人	-32.1%
年少人口 (0~14歳)	749人	468人	-37.5%



	平成27年 18,258人	平成47年 15,893人	人口増減率 -13.0%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳~)	4,370人	5,613人	28.4%
生産年齢人口 (15~64歳)	11,424人	8,898人	-22.1%
年少人口 (0~14歳)	2,464人	1,382人	-43.9%



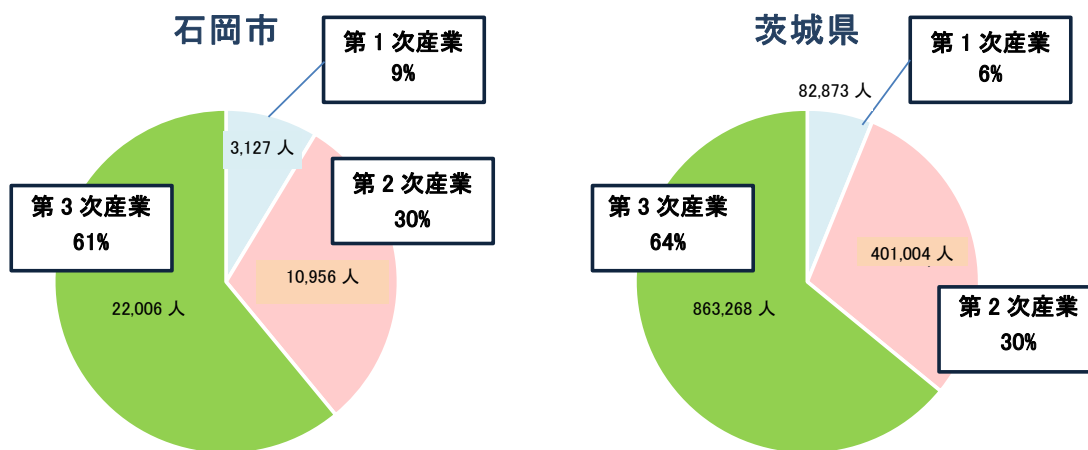
	平成27年 6,485人	平成47年 5,000人	人口増減率 -22.9%
	人口	人口	増減率
老年人口 (65歳~)	2,279人	2,122人	-6.9%
生産年齢人口 (15~64歳)	3,615人	2,466人	-31.8%
年少人口 (0~14歳)	591人	412人	-30.3%

3. 産業構造と就業者割合

石岡市の産業構造は、第3次産業が約61%と最も高い割合を占めています。これは茨城県全体の産業別就業者割合とほぼ同じで、第1次、第2次、第3次の割合がともに、1:3:6となっています。

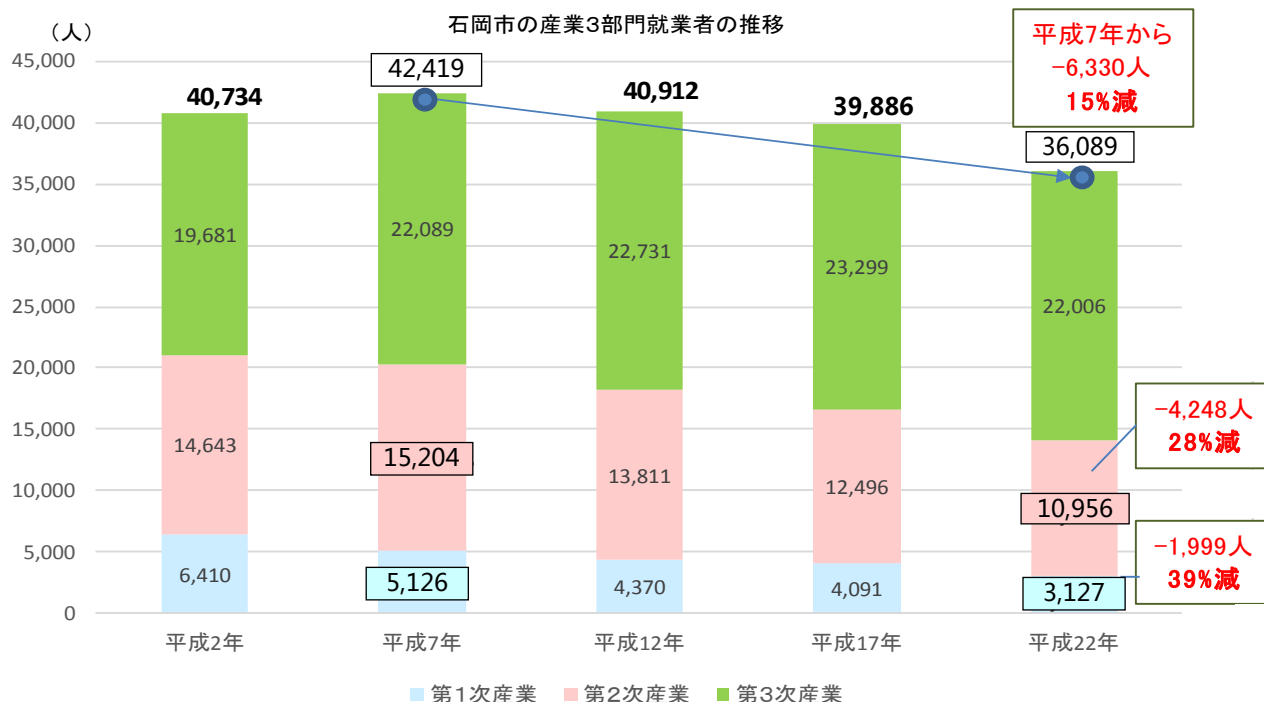
産業3部門就業者の推移についてみると、平成7年～平成22年にかけて、第1次産業は約39%減、第2次産業は約28%減、第3次産業はほぼ横ばいとなっており、3部門全体で約15%の就業者が減少しています。

図 産業別就業者割合



(出典：平成22年国勢調査)

図 産業3部門就業者の推移



(出典：平成2年から平成22年国勢調査)

※平成17年以前は旧石岡市と旧八郷町から算出

